

1年3組教室

本時で目指す授業

児童がよりよい聞き方についての対話を通して、話す人の気持ちを考えて聞くことの大切さに気づき、前時と本時の学びを実際にインタビューする際に活用することができる授業。

- I 単元名 一ねん三くみ ともだちしょうかいずかんをつくろう
 教材名 「ともだちのこと、しらせよう」(光村図書 1年下)

II 目指す子供の姿に向けて

単元で目指す子供の姿

- ・対話を通して、観点に沿って質問すると内容が詳しくなることや話し手の気持ちを考えて聞くことで大事なことを落とさずに聞くことができることに気づき、その気づきを生かしながら話をつなげてインタビューすることができる子供。
- ・質問の答えを基にまとまりを意識しながら文章を書いたり、書いた文章に対する感想を伝え合ったりすることができる子供。

単元の手立て

- ・他者を意識した対話
- ・学びを自覚する振り返り

単元について

- ・友達の楽しいことについて取材し、分かったことを文章に書いて紹介するという「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を関連させた複合単元である。
- ・「ともだちしょうかいずかんをつくろう」という言語活動を設定することで、友達の楽しいことについて詳しく取材し他の学級の人にも紹介するという相手意識と目的意識を明確にし、学習の見通しをもたせる。
- ・インタビュー活動は初めての経験であるため、実際のインタビュー映像を見せる。その際、2つの映像を比較させることで、よりよいインタビューについて捉えやすくする。
- ・インタビュー活動は、3人グループで行う。やり取りを客観的に聞く3人目がいることで、音声言語を介しても学びの活用が図られているか評価しやすい。
- ・紹介文を書く活動では、モデル文を提示し、まとまりを意識して書くことよきに気付かせるようにする。また、紹介文を読み合う活動では、感想を交流し合うことで、自分の書いた文章に自信をもったり相手のよきに気付いたりすることができる。
- ・一単位時間の前半で習得したことを後半で活用できるように単元構成を工夫する。このことにより、学びの自覚を促すことができる。

本単元で育みたい資質・能力

- ・インタビューして分かったことや思ったことを表現するための適切な言葉を探し、紹介文の中で使う力。
- ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように、話す人の気持ちを考えながら集中して聞く力。
- ・相手の話に関心を持ち、質問したり相手の発言を受けたりして話をつなぐ力。
- ・聞き取ったことを内容のまとまりが分かるように工夫して文章に書き表す力。
- ・書いた文章を読み合い、互いの良さを見つけて感想を伝え合う力。

子供の実態

- 「話すこと・聞くこと」
 - ・自分の体験について簡単な文章で話すことができるが、思いつくままに話している。
 - ・友達の考えと自分の考えを比べたり、よいところを意識したりしながら聞くことができるようになってきている。一方で、集中して聞いたり感想を述べたりなど共感的な態度で聞くことはまだ身に付いていない。
 - ・友達の発表や考えを聞いて、分からないところや詳しく知りたいことなど質問する力はまだ身に付いていない。
- 「書くこと」
 - ・自分の体験とその時の気持ちを簡単な文章で短く書くことができるが、まだまとまりを意識して文章を書いた経験はない。

主に働かせる見方・考え方の
 話の内容が詳しくなるための
 質問の仕方や聞き方が分かること。

III 単元について

(1) 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による言葉のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。【知識・技能(1)オ】
- 内容が詳しくなるように観点に沿って質問したり、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように聞いたりすることで、話す人の気持ちを考えながらインタビューすることができる。【思考・判断・表現 A(1)エオ】
- 質問して分かったことを語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。【思考・判断・表現 B(1)オ】
- インタビューを通して友達の楽しいことを紹介する活動に関心をもち、試行錯誤しながら他者と対話しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による言葉のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 (1)オ	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、内容が詳しくなるように観点に沿って質問したり、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように聞いたりすることで、話す人の気持ちを考えながらインタビューしている。 (A(1)エオ) ・「書くこと」において、質問して分かったことを語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)オ) 	インタビューを通して友達の楽しいことを紹介する活動に関心をもち、試行錯誤しながら他者と対話しようとする。

(3) 単元の指導計画及び評価の計画（6時間）

次	時	○主な学習活動	◆教師の支援	・主な評価規準 【観点】〔方法〕
一	1	○教師の紹介文を提示することで、単元のゴールを確かめ、学習の見通しをもつ。	◆単元計画を提示し、何のためにどのように学ぶのか学習の見通しをもつことができるようにする。	・学習の見通しをもち、自分の楽しいことを考えたり友達の楽しいことを伝えたりしようとしている。 【主】〔観察・発言〕
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 【単元の学習課題】 友達の楽しいことをインタビューしてもっと詳しく知り、紹介文に書いて知らせよう。 </div>				
		○自分の「今、一番楽しいこと」を考える。		
二	1	○楽しいことについて互いにインタビューをし、うまくできたことやできなかったことを出し合う。 ○2つのインタビュー映像を比較し、インタビューの技①(質問の技)を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ◆うまくできなかったことを出し合うことで、課題意識をもつことができるようにする。 ◆よりよい質問の仕方についての対話を通して、内容が詳しくなるような質問をすればよいことに気付くことができるようにする。 	・課題意識を基に内容が詳しくなるためにはどんな質問をすればよいか考えている。 【思】 〔対話の様子〕
	2 本時	○2つのインタビュー映像を比較し、インタビューの技②(聞き方の技)について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ◆よりよい聞き方についての対話を通して、大事なことを落とさないように聞くためには共感的な聞き方が大切であることに気付くことができるようにする。 ◆前時と本時の学びを活かして、教師とのインタビューの練習に取り組むことができるようにする。 	・内容が詳しくなるように観点に沿って質問したり、相手の知らせたことや自分の聞きたいことを落とさないように話し手の気持ちを考えながら聞いたりすることで、話をつないでインタビューしようとしている。【思】 〔対話の様子・インタビュー練習の様子・質問メモ〕

3	○ 3人組（聞く人・答える人・サポーター）にインタビューを行う。分かったことは紹介メモにまとめる。	◆ これまでの学びや前時での練習を生かして、実際にインタビュー活動に取り組むことができるようにする。	・ 内容が詳しくなるように観点に沿って質問したり、相手の知らせたことや自分の聞きたいことを落とさないように話し手の気持ちを考えながら聞いたりすることで、話をつないでインタビューしている。【思】 〔対話の様子・実際のインタビューの様子・紹介カード〕
4	○ 紹介文の書き方を知る。 ○ 紹介メモを使って、紹介文を書く。	◆ モデル文を掲示し、そのよさについての対話を通して、内容のまとまりを意識して書くと、読み手に分かりやすい文章になることに気付くことができるようにする。 ◆ 本時の学びを生かし紹介文を書くことができるようにする。	・ 紹介メモを基に内容のまとまりを考えながら紹介文を書いている。【思】 〔対話の様子・紹介文〕 ・ インタビューして分かったことや思ったことを表現するための適切な言葉を探し、紹介文の中で使っている。【知】〔紹介文〕
三	1 ○ 互いの紹介文を読み合い、感想を交流する。 ○ 単元の振り返りをする。	◆ 紹介文を読み合い、よいところを見付けながら感想を伝えることができるようにする。 ◆ 振り返りの中の児童の気付きや感想を価値付けて、本単元の学びを自覚できるようにする。	・ 友達の紹介文を読み、そのよさについて感想を述べている。【思】 〔発言・付箋〕 ・ インタビューを基に書いた紹介文が友達に伝わった楽しさを味わい、また知らせたいという意欲をもっている。【主】 〔観察・振り返りの記述〕
<p>【単元の学習課題のまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インタビュー名人の技→話がつながる ① 質問の技→内容が詳しくなる 質問の言葉（いつ・どこで・誰が（と）・何を・なぜ・どのくらい） ② 聞き方の技→話し手が話しやすくなる うなずく・くりかえす・感想を話す ○ 紹介文を書く技 まとまりで書く（はじめ・中・おわり） 			

5 本時の目標

2つのインタビュー映像の比較からよりよい聞き方について対話することで、話し手の気持ちを考えながら聞くことの大切さに気付き、話をつなげてインタビューをしようとするができる。

【思考・判断・表現(1)エオ】

6 本時の学習（3／6）

学習活動 ・主な発問や指示	・予想される児童の発言・思考	・教師の関わり ◎具体的評価規準 教師の手立て
<p>1 前時までの想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前の時間のインタビュー名人のコツはなんでしょうか。 <p>2 課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生もインタビューしたので、見てみましょう。 ・ もう一つインタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が詳しくなる質問をする。 ・ ひとつとどこかでとか質問の言葉を使う。 ・ その人の楽しいことに合わせて質問をする。 ・ 質問の言葉を使って質問しているからいい。 ・ インタビュー名人だよ。 ・ なんかもおかしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のインタビュー名人の技（質問の技）を確認する。 ・ 映像①（質問あり・反応なし）と映像②（質問あり・うなずきや復唱、感想など話し手の気持ちを考えた反応あり）の比較を通して、本時の課題を捉えることができるようにす

<p>一してみたので、見 てみましょう。</p> <p>3 課題解決のための 対話</p>	<p>・こっちのほうがいいよ。</p>	<p>る。</p>
<p>どちらがインタビュー名人かな。</p> <p>・どちらがインタビュー 名人か、その理由 も教えてください。</p> <p>・なぜ、感想を言ったり 繰り返したりすれば よいのですか。</p> <p>・質問の技と聞き方の 技を使うと、どんな インタビューになり ますか。</p> <p>4 学びの自覚</p>	<p>①は質問の技を使っているよ。 ②も使っているね。 ②は感想を話しているよ。</p> <p>話す人がうれしくなる。 きちんと聞いていると分かる。 話してよかったって思う。</p> <p>話が続く。 答える人がうれしくなる。</p>	<p>よりよい聞き方についての対話</p> <p>・二択にすることで、どの児童にも自 分の意見をもたせるようにする。 ・やり取りを文章化したワークシート を配付し、名人だと思った箇所に丸 を付けることで、視覚的にも捉える ことができるようにする。 ・「感想」「繰り返し」等に着目した 児童の意見を基に、相手が話しやす くなることに気付くことができるよ うにする。 ・前時と本時で学んだことを意識する と、相手が話しやすいだけではなく、 話がつながっていくことにも気付く ことができるようにする。</p>
<p>インタビューめいじんのわざ→はなしがつながる ①しつものわざ→くわしくなる しつものことば *前時で学習済み (いつ・どこで・誰が(と)・何を・なぜ・どのくらい) ②ききかたのわざ→あいてがはなしやすくなる うなずく・かんそう・くりかえす</p>		
<p>5 学びの活用</p> <p>・インタビュー名人の 技を使って、先生と インタビューの練習 をしましょう。</p>	<p>児：いま一番楽しいことはなんで すか。 教：ピアノを弾くことです。 児：いつ弾いているんですか。 教：名人！（質問の技） 教：毎日学校から帰ったら弾いて います。 児：毎日ですか。すごいですね。 教：名人！（聞き方の技）</p> <p>・</p>	<p>・児童がインタビューをする側、教師 が受ける側となりインタビューの練 習を行うことで、イメージをつかま せ、次時で行う実際のインタビュー 活動へとつなげる。 ・質問が思い浮かばない児童には、質 問の技から選ぶように声がけする。 ・学びの活用が見られた際は、教師が 「名人！」の札をあげることで、活 用できていることを児童自身が自覚 できるようにする。 ◎内容が詳しくなるように観点に沿っ て質問したり、相手の知らせたこと や自分の聞きたいことを落とさない ように話し手の気持ちを考えながら 聞いたりすることで、話をつないで インタビューしようとしている。 【思・判・表】 [対話の様子・インタビュー練習の様 子・質問メモ]</p>
<p>6 本時の振り返り</p> <p>・今日の学習を振り返 りましょう。</p>	<p>・質問の言葉を使って質問するこ とができてよかったです。 ・〇〇さんの聞き方が上手だった のでまねしたいです。</p>	<p>学びを自覚する振り返り</p> <p>・本時の学びを自覚できるように、わ (分かったこと)・か(関わり)・ こ(これから)の観点を示し、振り 返ることができるようにする。</p>
<p>7 次時の確認</p> <p>・次の時間の確認をし ましょう。</p>	<p>・早くインタビューしたいな。 ・聞き方の技を使ってみたいな。</p>	<p>・次時への意欲付けを図る。</p>